

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 学長からのプレゼント

みなさんご存じの「企業版」ふるさと納税（寄附）のお願いに、本市とご縁のある企業の本社を回っています。先日、そうした折、東京理科大学の学長室をお邪魔しました。藤嶋昭学長は、ここ数年、ノーベル賞候補として名前の挙がっている日本を代表する理系の学者です。

学長室の隅には、藤嶋先生がお書きになった刊行物が山積みになっていて、その中から、先生が直々に選んで、理科が大好きになりそうな児童・生徒向けの本を19冊もプレゼントしてくれました。『開け！科学の扉』『なぜ？ どうして？ 世の中のふしぎ』『小さな疑問から大きな発見へ！』『ヤングサイエンス選書全8巻BOXセット』等々。全8巻BOXセットは『ふしぎ不思議の理科教室』『科学が好きになる22のヒントと実践』など、きっと児童・生徒のみなさんに喜んでもらえるものばかりと思います。早速、本市の図書館に届けました。



■ 国内版ワーキングホリデー

前号でみなさんにお知らせした「国内版ワーキングホリデー」（都会の若者がしばらく地方で働きながら田舎暮らしを体験し、地方への若

者帰りの流れを作る国の事業で、山口県も挑戦しています）。

その後、（株）花の海への参加者が1人増え、合計3人になりました。3人目は大阪府在住の大学生（女性）で、就労期間は3月9日（休）から同月20日（祝）まで。既に（株）花の海に来てくれた2人の学生は、慣れない環境でとまどいもあったと思いますが、きっと楽しい思い出を持って帰ってくれたことでしょう。

■ 高校卒業式

私は、新制高校の第7回卒業生です。戦後の学制改革で、旧制中学校・女学校の4年生以上が新制高校に昇格し、男女共学の高等学校が誕生しました。当時から卒業式は3月1日でした。3月3日から国立大学1期校の入試が始まるため、スケジュールの難しさから卒業式への出席を諦める友人もいました。

私の卒業式も、外見は何の変哲もないものでしたが、代表して答辞を読みながら、また「仰げば尊し」を合唱しながら、高校での3年間を振り返ると、溢れ出る涙を止めることができませんでした。

高校を卒業して47年ぶりにふるさとに帰ってきました。親兄弟も誰もいない、生まれ育った家も既になくなっていましたが、母校の見える土地に自宅を建てました。時々屋根裏の3階の窓から、掃山の丘に建つ母校を眺めていると、まだ若かった頃の日々が懐かしく思い出され、ふるさとに帰って来た喜びを噛みしめています。